2019 年 5月 16日

学籍番号 16A1037C 氏名 西村祝愛

今日のお話は、今一般に横行している酪農や経営の悪い面を取り出し、「これでは良くない」とより良い理念理想を語るのが主だったと思う。普段私はネットなどでこのような主張を見ると、かなり否定的に主張を読んでしまうのだが、今回は、理想の下行動し、その理想に近いことをやっている中洞さんの下で働き、またそこにも疑問を抱いて、一人出ち失敗も経験した上で、今がんばっている方のお話だったので、リアリティを感じて聞くことができた。

お話の中で、6次産業化によって業務が多くたくさんなり中洞牧場は、分業、企業的な経営になり工業的無様式で山地酪農の1つの良さが失なわれた経営になってきているという内容があった。実際に中洞牧場の内部を見ておらず企業化の程度はわからないが、分業役割分配は人間の行う良い工夫の1つだと思っているので少しその主張に疑問を感じた。

ただ、業務の専門分配でそれしかしない人が出てくる、企業化でパーソナルで、同業者との横のつながりがうすくなるのはたしかに問題だと思うので、6次産業化、分業との折り合いをなんとかさがしたいと思う。

学籍番号: 17A3004A　氏名: 石川 凜太郎

科目名: 山村計画学　授業日: 5月16日

幸山さんの話では、山地酪農について理解を深めることができた。元来、畜産とは人間が直接利用できない山の植物資源を利用して肉や乳を生産するものであり、山地酪農はこれを体現した酪農スタイルである。山の管理が容易になり、牛の排便処理などの労力もかからないことは知っていたが、お産や子育ても母牛が行い、人間の手がかからないことにはとても驚いた。今後は、現在の「介護酪農」から「山地酪農」に転換していくことが、家畜の保護、また日本の畜産の発展など様々な面において重要となると感じた。幸山さんのおっしゃっていたように、私も放牧には「草原で大の字で寝る」という映画のようなイメージを描いていたので、それを体現できる山地酪農にはとても興味を持っている。一方で、特に畜産は一年間通して家畜の面倒を見ていなければいけないというイメージがあり、例えば家族旅行なども行けないのではないかなど、私生活も縛られてしまう気がする。また、山地酪農を継続・発展していくためには、社会全体の意識を変えていく必要があると感じたので、その点についても詳しく学びたいと思った。

元年 5月 16日

学籍番号 19AD001K 氏名 飯田 森人

・まずは、自分自身が体験・経験をしたことで身につけた一次情報がこれからは一際大切になってくると感じています。

・放牧なんてやめろ！という農協などの主張はもうかるもうからないという何というか非常に考え方がせまい印象を受けました。舎飼い酪農で生産された牛の肉や牛乳などを食べ続けると人体にもどのような悪影響を与えるのか。例えば、牛乳は癌を誘発するという内容の本を読んでいるのですが、牛乳は好きなので少しではありますが飲んではいます。中洞牧場の牛乳を飲んでみたいと思いますが、いかんせん一般に売っている牛乳の3倍はしてしまうのでなかなか買えません。何を信じるのか、何を信じないのかたまに分からなくなりますが、初めに述べた一次情報を自信を持って取捨し行動していきたいと思います。

学籍番号: 17A3803D　　氏名: 藤山郁海

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月16日

先回の講義で中洞牧場について知り、今回実際に中洞牧場にいた幸山さんのお話を聞いて、どのような経緯で山地酪農をするようになったのか知ることができました。合理的な酪農のあり方が効率的で経済的であっても、生物であるものへの負担が大きかったり、個のことなどを考えると、自然環境にも良くないことがたくさんあると思いました。実際に自分が生まれ育った場所でない地域であっても、自分から地域に入りこんでいくことは勇気のいる決断であるし、そこで、周囲の人から山地酪農への理解を得られるかなど、不安に思うこともあったと思いますが、地域のコミュニティやつながりを大切に生活していくことが大事だと思いました。

田舎で生活していても、企業で勤めている人が多い現在だと思いますが、周りの環境をはかって農業経営を始めていくことで、その地域への貢献にもつながっていくし、地元住民との関わりも増え、良い循環ができていくと思いました。

年 5月 16日

学籍番号 16A4021C 氏名 高山紀里佳

現在行われている酪農や指導してくださる先生は必ずしも正しくなく、外で学び自分の目で判断するべきだと考えた。根羽村では一人ではできなかったことを協力し、補完し合っており、互酬制経済が成立していると伺った。このお金のやりとりなしの関係を築くことが農村を活性化する方法ではないかと考えた。山地酪農2.0は工業的酪農を含み分業性のある企業経営型であるが、3.0は地域コミュニティーと連携していることを伺った。山地酪農2.0の何を変えたら地域コミュニティーが生まれる3.0になるのか、疑問に思った。根羽村を含め農村にどのようなアプローチをしたら農村活性ができるのかを考えながら研究に励みたい。

R 1 年 5月 16 日

学籍番号 17A3010F　氏名 尾関 明子

山地酪農がこれまでおかれてきた環境と、今後のあり方として目指すべき形の1つを改めて確認することができたのが良かった。

特に、山地酪農がおかれている環境について、大手乳業メーカーは飼料メーカーでもある、ということをはじめて認識したし、またその事実によって、大手乳業メーカーが、山地酪農を営むような中小酪農家が酪農を営むにあたり、少なからず壁となってしまうということが特に印象に残った。山地酪農2.0の説明でもあったような6次産業化という視点で販売を広げることは、大手メーカーとは異なる消費者へのアプローチではないかと思ったが、6次産業化も必ず成功する訳ではないという話や、山地酪農2.0は敬遠されやすいという話からも、6次産業化も容易ではないのだと改めて感じた。

大手メーカーとは別の視点から消費者と繋がることが、山地酪農が今後も続くためには必要であると考えるし、そのアプローチとしても、山地酪農3.0で挙げられた、酪農家同士や地域コミュニティとの連携が有効となるのではないかと感じた。

元年 5月 16日

学籍番号 17A3002E 氏名 有田莞治

今日の講義は山地酪農を行っている新山さんの話を聞いた。元々興味のあった酪農の現実を知り、理想とのギャップを受け取めたうえで劣悪な環境下で育生されている牛や豚、つながりが希薄な人間関係をどうにかするために自分でこうが地域ぐるみで活動していくところがすごいと思った。また、山地酪農は前回の授業で映像を見ていたので牧歌的なものだと思っていたが、地域住民や同業の方々からは特異的な目で見られていたのは意外であった。自分たちは山地酪農という方法を知っているだけであって、そこに至るまでの経緯やその苦労などの話は新鮮で興味深かった。

2019年 5月 16日

学籍番号 15A20010 氏名 浅井 博文

実際に山で生活をしている人の話を聞けたことは、とても貴重でした。しかも、明治大学という私立の農学部というのは、バイオ系が盛んなイメージがあったため、そこから、フィールドを学ぶという経歴に驚きました。がとても良い考え方をもっているし、話を聞いて魅力的だなと思いました。

"金が全てではない"こと言葉が深く刺さりました。しかし、大多数の人間が、金銭を気にせずに生活をしていくという事は本当に可能か考えてしまいます。

自給自足だけでは、自分の分しかまかなえませんし、社会を継続させるには、下流で働く人は必要です。金銭を気にしない＝生産を無理しない、という考えであると思うので、私は無理はしないけど、人類が生きていくだけの食料がまかなえるような技術の発展について多少調べようと思いました。

2019 年 5 月 16 日

学籍番号 15A2036G 氏名 洋祐里奈

今回幸山さんのお話を聞いて、山地酪農のメリット、デメリット、また課題について考えさせられました。

前回までの授業で、これから山地酪農をする農家さんが増えれば良い、と考えていたのですが、よくよく考えると、山地酪農こそが酪農の本来の姿（人が食べることのできない草から、乳、肉を生産すること）だと思いました。ただ、それを難しくしている現実がある、ということも改めて考えさせられました。

牛乳に対する人々の理想（乳脂肪率3.5%以上等）も、ストレスなく育てられた牛からとれる牛乳とどちらが良いのか、また企業生産の現実はどんなものなのか、という事を消費者がもっと知っていく必要がある、というように感じました。

学籍番号: 17A3015G 氏名: 小[illegible]

科目名: 山科計画学 授業日: 5月16日

牟山さんの講義を聞いて改めて将来について考えさせられました。大学の講義には教育的な面もある一方で、実際に現場に行かなければ、農業林業畜産の本質は分からないというのもまさしくその通りだなあと思いました。今日時間がありませんが、飛騨科にも実際足を運び山路酪農を自分の目で見たいと考えています。本日話された乳製牧場、高根泉にある牧場ということで見たことがあるかなあと思いパッケージを調べてみましたが見た記憶がなかったので次回の帰省の際にもう少し詳しく調べようと思います。2週に渡り山路酪農について学びましたが、工業生産という部分だけに目を向ければかなり有用な合理酪農と、山路酪農がどう融合し、共存していくのか、日本の畜産業界のこの先が気になります。

2019年 5月16日

学籍番号 17a4802a 氏名 千川 聖香

・山地酪農と牛舎の現実を知って、山地酪農が生き生きとした酪農であることを感じた。牛舎のほこりの多さから牛は肺炎になる話を聞いて、私たちがふだん口にしている牛乳や肉は本当に安全なのか、改めて疑問に思うと同時に、牛乳や肉を食べない方が良いと考える学者たちの意見に共感した。

2019年 5月 16日

学籍番号 17A4006C 氏名 大友 碧

畜舎で飼われる牛などが劣悪な環境で、ストレスをためこまい病気になってしまうという話は聞いたことがありましたが、まさか立ったままなったり、本来食べるはずではない穀物を食べさせられて体内で発生したガスでお腹が膨れあがってしまったりなど、想像していたより何倍もひどい状況に驚きました。30年はきられるはずなのに5〜6年で殺されてしまうなど、人間で言っても私たちより若くして殺されていると考えると、本当にむごいと思います。何より、子牛の出産に立ち合っても何もせず、子牛を死なせてしまうなど、人としてどうかというレベルです。

牛も人も幸せではない産業など、何のためにあるのかわかりません。意味のない産業など千年も続くわけがないと思います。千年続く酪農のために、まずは自分たちがしていることが、客観的に見てどう映るのか、どういう意味を持っているのか、一度冷静に見つめ直してみるべきであると思いました。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A2042B 氏名 吉沢 唯

今日、幸山さんのお話を聞いて、何度も衝撃を受けました。まず、一番驚いたのは、幸山さんの行動力です。私も、先週のビデオを見て、舎飼いされている牛を可哀想だな、と思いはしました。けど、私は思っただけで、そこからこれから何をしよう、という具体的な考えは想像しなかったし、想像しようとも思いませんでした。しかし、幸山さんの場合は、大切な動物のため、自分が信じれるものだけ信じる、ということで就活をせずに、親方の元で修業をしました。私はその話を聞いたとき、自分に足りないのはこういう熱い思いや行動力なんだろうな、とひしひしと実感させられました。例え、幸山さんの行動力まで思いきったことはできなくても、自分にだってもうすこしできることはたくさんあるはずです。そして少しでも今の日本の酪農の発展に貢献できたらな、と思いました。そのため、今、大学生中にできる、情報収集や知識を後悔しないくらい自分のものにして、いざ就職について直面したときに、どんな仕事にも対応できるくらいになりたいです。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A2035K 氏名 増岡 奈月

〈感想〉

私は中洞牧場のビデオを見て、中洞牧場の行っていた山地酪農にとても興味を持っていたので実際に山地酪農を経営されている幸山さんのお話はリアリティーがあり、とても興味深く勉強になった。山地酪農は酪農を変えていくことはもちろん、それだけでなく、社会全体を変化させることが必要な大きな酪農であることを知った。私も将来は過去の事例にとらわれず、何か大きなことをしたいという漠然とした夢があるので幸山さんのように自分の信じる道を突き進めることができたら人生楽しいだろうと思った。動物が好きな人には人が苦手という人もいるが、動物を幸せに飼うためには一人ではできないことが多くあり、周りの人とのコミュニティが重要になるということを学んだ。

山地酪農にはまだまだ多くの課題があるので、それを1つでも解決できるように考えてみたいと思った。

学籍番号: 18A3007K　　氏名: 伊藤 宏應

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月 16日

幸山さんの話を聞いて、山地酪農についての理解が深まった。畜舎飼いの牛は、「牛がロボット、人もロボットの工業的生産システム」だという意見を聞いて、自分も現在の経済動物の在り方について考えようと思った。しかし、動物にとってやさしくすると経費が上がり、ヒトにとって効率の良い育て方（密飼い、屠殺）をすると儲かるという現状もあるので、牛にもヒトにもやさしい畜産業のやり方はやはり難しいんだなと思った。山地酪農は、まだ基本的概念がないので、社会の変化に対応し易い。人間が食べることができない植物資源を牛が食べ乳や肉を生産するというメリットもある。

また、山地酪農から社会を考え、人間社会も無理、無駄のない体系続くようにしていくべきだ、という思想は素敵だなと思った。

2019年 5 月 16 日

学籍番号 18A3011H　氏名 大鳴 ひとみ

幸山さんのお話を聞いて 自分の理想的な生活をしていて、自分もそのような人生が送れたらよいと思った。周囲の地域住民や、同世代の異業種の方など繋がりや仲間が周りにあってすごく楽しそうだと感じた。

今回のお話で意識したいと思ったことは、外に出て自分の目や肌で感じること 考えることと、分からないことをスルーしない、自分のやりたいことに挑戦することを大事にしたいと思った。やはり、経験することが一番すぐに学べるのではと思う。自分の人生を進化させるために人に聞く。私も自然の中でのびのびと暮らしたいという思いはあって、本当にそういう生活ができるのかは、自信がなかった。しかし、幸山さんのように生活している方はたくさんいらっしゃって 自分のやりたいことに勇気を持って挑戦していけばできるかもしれないという少し気持ちを追された。 牛のように、無理無駄のないゆっくりとした時間を 大自然で過ごせるときが来たら本当によいと心から思った。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A3026F 氏名 谷野 秀和

幸山さんもおっしゃられていたように、僕も実際に体験して学ぶことが大事だと思ったので、広い実習地がある信州大学を選んだ。ずっと座って先生の話を聞いていても面白くないし、それが本当のことかも分からないが、自分が実際にやってみて気づくことがあると思うので、フィールドワークは大切だと思う。

一つ良いなと思ったことが、自分のできることをして、そのお返しにご飯や野菜を分けてもらえるという暮らしである。僕自身そういう生活にすごく憧れるし、自分も自分が役に立ったという実感が得られて幸せだし、相手も助かって幸せで win-win な関係が築けると思った。そういった暮らしができるのも、小さなコミュニティに住むメリットだし、濃い人間関係が築けそうだと思った。

最後に疑問に思ったことは、山地酪農をしていて牛が逃げていなくなったり、野生動物に襲われることはないのか気になった。

年　月　日

学籍番号 18A3033J 氏名 永島陽大

牛が職務を終える期間が思っていたよりも短く、もう少し長くしてあげられたらいいと思う。この期間は、餌に影響するのか牛の体的にダメなのかはわからないが、もし品質の良い餌によって長くなるのであれば開発が必要であると思う。肉用牛は情がわいてしまうと出荷のとき辛いとあるかもしれないが乳用牛と同じ牛であるので同じように、ストレス与えず飼育してほしい。

学籍番号: 18A3005C　氏名: 井内晴佳

科目名: 山村計画学　授業日: 5月 16日

今日のお話をおきいて自分のやりたいことをきちんと考えて、あきらめずにそれを達成しようとすることが人生において大切であるということを知ることができた。どうしても、自分の家がもともと農家ではない状況で新規就農者として農家になろうとすると、家族やまわりの反対は必ずあると思うし、農家になれたとしても、自分の目指す農業のあり方について反対してくる人もたくさんいると思う。私は心がすぐ折れてしまうタイプなので、反対意見を受けると、あきらめてしまうことが多い。自分自身、農業の道に進みたいと思って農学部に来たけれど、親からは公務員になるよう言われ続け、公務員を目指そうとしていた。しかし、今日のお話をおきいて、反対意見を押し切って、自分のやりたいと思っていた山地酪農を実現して、山の近くのいなかで生活していくことをすごく楽しんでいる姿がすごく輝いて見えた。自分もやはり、お役所では働きたいとは思えないし、いなかで農業に関わりながら生活していきたいと思った。もっと自分のやりたいことに向き合いながら、将来のビジョンを考えていきたいと思った。

2019年 5月16日

学籍番号 18A3028B 氏名 土屋 雄大

幸山さんのお話しは実体験に基づいたお話で、さらに信念を持って今まで酪農をしてこられたということで、雰囲気が力強く、すごく勉強になりました。

幸山さんのお話の中で、酪農は生命を扱う産業だということを強調していましたが、農業も生物を扱う産業なので自分も将来農業をやることになったら、その植物が自然な形でそのポテンシャルを出せるようなやり方で行いたいと思いました。

2019年 5 月 16 日

学籍番号 18A3016J 氏名 黒田 莉帆

現代の酪農スタイルの現状や課題を知ることができた。舎飼酪農における牛は病弱短命だと知り、いかにその牛たちが生きてる間ストレスフルな状況下におかれているのかを物語っているようだった。そんな牛たちの乳や肉を私たちは食べているのかと思うと少し考えさせられるものがあった。今の時代全ての食べ物が安心安全で自然食品を手にするのは難しいことだと思うが、そのような生産側の現実というのは知っておいて今後に活かしていかなければいけないなということを感じた。その中で社会を考え持続的な未来を作るという考えに至った幸山さんは本当にすごい人だなと思った。人にとっても動物にとっても、自然でストレスのない生活はそれがそれらしくあるために必要不可欠だということが改めて分かった。

学籍番号: 18A3041K　氏名: 村田麗奈

科目名: 山村計画学　授業日: 5月16日

企業的な酪農の経営への強い批判、
酪農家同士や酪農牛への愛が
とても溢れていた講義だった。
広大な山地でマニュアルもなく、
本当に試行錯誤で今があると思い、
自由からの挑戦の素晴らしさ、凄さを
感じた。企業経営の人が村の人たち
に嫌われるというのが少し怖かったが、
それくらい自分の酪農業が好きなんだ
と思った。酪農家同士、村同士仲良く
していこうとしている今では、生命産業の
価値が大きくなっただろう。生産者が
仲良く助け合うことを知った私達は
彼らがつくった製品を自然とさらに
おいしいと思える気がする。
自分も酪農だけでなく、他の分野でも
製品だけが価値ではないということを
忘れないように心掛けていきたい。

学籍番号: 18A3044D　氏名: 山口 みゆ

科目名: 山村計画学　授業日: 5月16日

すごく自分の軸がしっかりしていて、考えたこと、やろうと思ったことを、実際に行動にうつしていらっしゃって、いろんな体験をされているので、お話にすごく説得力がありました。力強い講義をひさしぶりに受けたので、目がさめるような感覚がしました。

自分が疑問に思ったこと、考えたこと、おかしいと感じたことを、そのままにしている人が大半だと思います。それを、大学に行って学んで、新たな疑問を生み、また体験的に学んで、理想と現実を見て、真実を知る、そして、自分なりの考え、結論を生みだし、行動する。そして、柔軟に進化し続けるということが、私たち大学生に求められる能動的な学びの、一番基礎の部分であり、一番大切な部分であり、一番足りない部分だと考えています。

私もそんな風になりたいし、そうすることで、自分自身に納得した人生が創造できると思いました。

学籍番号: 18A3040A　氏名: 増田 栞

科目名: 山村計画学　授業日: 5 月 16 日

幸山さんのお話は理想を目指しながらも現実の難しい点、デメリットもふまえながらのお話だったのでとても飲みこみやすかった。生活もとても素敵で、過剰なものがなく、幸せな生活をしていると思った。効率だけを求めるのではなく、人も動物も幸せな産業はやはりもうからないが、それでも周辺の人々との助け合い、自分の技術や労働力を財産にすることで充分な暮らしができることに感銘を受けた。衣、食、住がそろっていれば人は生きていけるという当たり前のことを改めて気づかされた。もちろんそれ以外の趣味の分野ややりたいことでお金はかかるだろうが、余計なものを削っていけば十分困らないだろう。幸山さんのように幸せな生活をするためにはまず経験することが大切で、大学生の間が最も行動しやすいと思った。なので大学生の内に積極的に学外や学内の活動に参加したい。またそこから人とのつながりも増えると思うので、後悔のないよう行動していきたい。

学籍番号: 18A3022C　　氏名: 清水葵羽

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月16日

山地酪農を始めたきっかけの「豚がじゅうたんのよう」「黒豚と見間違えた」というセリフにリアルさがでていた。今まで、ただ家畜は飼われそう、とか、せまそう、とは思っていたけれど、結局生産性の面から、今の畜産が最も良いと考えていた。前回の映像資でもあまりその考えに変化は無かった。しかし、今日のお話を聞いて、山地酪農のみかたが変わった。まず、生産性について、ブン雪のそうじが不要な点、人工受精が不要な点、エサやりの手間が大幅に減る点から、生産に直結する事柄以外に目を向ける余裕が出て、生産性は私の想像より悪くないのかもしれないと思った。また、病気の話について、ホルモン投与等がへる事は食の安全性の面からも大きなメリットだと感じた。山地酪農は田舎暮らし好きのための理想酪農だから大きく普及する必要はないだろう、と考えていたが、山地の少く、人口の集中してしまっている日本にとって、様々な問題の解決口なのではないかと感じた。1000年続く社会、酪農は、より手間をかけず、家畜自身で生き抜く酪農で、土地の有効利用や人の生活の変化からつくられると思う。

年 05 月 16 日

学籍番号 18A30179　氏名 HUANG TAO

私は山地酪農という生産方式に対して違う意見を持っていて、これは特定な地域しかに適用しない畜牧生産だと思う。なぜなら、経営方法は前の家庭経営から企業経営に変わった。企業の構成は家庭より複雑で運営も難しい。企業は生きるために利益を追求しなければならない。巨大な市場の競争の圧力の下、様々な問題が現れる。産量、品質、消費者の需求などに対応するために大量な労動が必要になる。

また、牛の糞本当に環境にいいのか？汚染や人畜共通の伝染病の源になる可能性もある。

さらに、未来は「人造肉」や「人造乳」の技術は成熟して流行になら、山地酪農は千年続くなんては不可能になるだろう。

学籍番号:18A3021F　氏名:篠原 環

科目名:山村計画学　授業日: 5月16日

動物福祉や、人間の心の豊かさを尊重できていない社会に、今現在なってしまっていると思う。
労働力の問題や、農業の持続可能性の問題など様々な問題が世界にはあるが、幸山さんのように、質的な豊かさではなく、精神的豊かさを優先するという考え方や生活をすべての人々ができるようになれば、このような問題はなくなっていくのかなと思った。
実際、この質的な豊かさだけは十分な社会では人間は本当に満足していないし、次々に新しいものを求めるばかりで満たされることがないのではないかと思う。
今はまだ難しいかもしれないが、いずれ、精神的豊かさを優先した生活をできる人が増えて、社会がそのような方向に向かっていって欲しいと思う。
牛や豚などの家畜、野菜や果物も本来、人間の手がなくても育つ力がある。その能力をこえた量を人間が欲してしまったとき、肥料や濃厚飼料など様々な問題のもととなるものが必要になるのだと思う。その生物が本来もつ力をこえない程度に消費をおさえることができれば良いと思う。

学籍番号: 18A3004E　氏名: 新谷慎太郎

科目名: 山村計画学　授業日: 5月16日

前回の講義で山地酪農について聞いて、再度聞くことになったので理解を深めることができた。特に新しく知った情報として牛の寿命についてに興味をもった。牛がどれくらい生きるのかすらも何も知らなかったが、20~30年生きる生物が5~6年しか生きないという牛舎で飼うことの現実に驚いた。確かに今の農業は機械的な効率を極限まで追い求めた形態になっていて、その典型例に他ならないと思った。また、抗生物質の投与が今も行われているという事実を知った。昨年に読んだ「失われてゆく我々の内なる細菌」という本の中で抗生剤に関する書き込みがあったので、より真剣に聞くことになった。牛に投与される抗生剤は牛の体を大きくしたり、病を治したりするが、抗生物質耐性因子の出現を大いに早めてしまうことが知られている。人間も牛を直に抗生剤を取り込むことになるので問題は深刻であると感じた。品質や経済性を追い求める農業形態はそう長くは続かないように思う。山地酪農をはじめとする新たな形態の創造の必要性を実感した。

学籍番号: 18A3038K　　氏名: 堀 礼人

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月16日

今回、実際に山地酪農を行っている人の話を聞いて、幸山さんがどのように考えて山地酪農を行っているのか知ることが出来た。幸山さんは動物、人のことを大切に考え、無機的なつながりではなく、私で酪農を行っていくことに対しての強い熱意を感じた。また、小さなコミュニティを大切にして生きていくことで、生活しやすいのではないかと考えることも出来た。一方で、下流域とのつながりを考え、学びの場や、水の利用などを下流域と上流域の間で一緒に考えていくことが大切であるということには非常に共感が出来た。このことから小さなコミュニティーを大切にし、その中で自給の出来ることを伸ばして行くことと、その他とのコミュニティーも大切にし、互いに協同、協働し合うことで「ゆたかな」生活をおくっていくことが出来るようになるのではないかと考えた。

一方で今ある社会では、労働を大切にし、ワークシェアを用いていくことが必要なこととなっている。またそのワークシェアも産業界の会にまでおよんでいて、これ以上大きな社会をつくることが難しくなりつつあるのではないかと考えた。しかし、国際的な状況、それが明らかに、まだ、大きな社会をつくることが目標であることにかわりはない。そのため、小さなコミュニティーをどのように広げるのか、また、協力や協同をどう広げていくか考える必要があると考えた。

2019 年 5 月 16 日

学籍番号 18A3018E 氏名 小林 楓

今日のお話を聞いて、今の日本の形よりも、少し前の日本に戻れたほうが、幸せなのではないかと思った。不自由な生活になるというイメージもあったが、現代の良い所も残し、周囲の人とのつながり、田んぼや、森林に、たずさわる仕事をし、忙しい世の中ではなく、ゆったりとした人間らしい本当の幸せに近づけるのではないかと思った。山地酪農ができれば、手つかずの土地の手入れもでき、無駄もなく酪農をすることができる。さらに、牛も幸せになれる。汚い中で生き、自由もないまま一生を終える牛。経済動物とは何かと考えさせられた。青草を食べ、脂肪部分の色が悪くなってしまったとしても、絶対に幸せに生き、暮らし、本能のままに生きた牛の乳や、肉の方がおいしいし、人間の健康のためにも良いと思った。これからの持続的な社会のためにもなる山地酪農や、昔ながらの周囲の人たちとのつながりを取り戻していけるような社会になれば良いと思った。

2019年5月16日

学籍番号 18A3019C 氏名 金藏未優

今の社会の大量生産大量消費がもうかる仕組みにずっと疑問を持っていました。でも今回の幸山さんの話を聞いて改めてそこを変えるために行動することは、困難な道であることがわかりました。それでも、変えるためには自分を信じて行動を起こす他ないことも。

人間の都合？一部の企業の都合に合わせてできてる今の仕組では、動物だけじゃなく環境、人にまで影響が出ている。特に、牛脂肪の基準や肉の脂肪の色による評価の点で感じました。本当の事実を誰かに操作されて、誤った認識が普及してしまっている。もっと多くの人たちに食料生産の現状と真実を伝えていかなくてはならないと思いました。その上で、効率性だけじゃないものが価値となりうるような仕組みがあればと。

そしてもう1つ痛感したのは、今後の社会で生きていくためには、効率性の世の中でロボットのように生きないためには、自分の能力という武器が必要だと強く感じました。誰かと同じように、周りに流されて…ではなく自分自身が何を考え、何を創り、何ができるかを身につけたいと思いました。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A3024K 氏名 高田 晏未

幸山さんの話をきき、一般的な酪農に流されず、自分のやり方を自分で考えてそれを実行していく所がすごいと感じた。今、大学で農学を学んでいるが、ただ先生からきいたことをメモして覚えるのでは全く意味がない。それに対して自分がどう思うのかが非常に大切であり、学生時代のそうした思いが今の幸山さんをつくっているのだと思った。牧場を最初は1人でやろうとしたが、今は周りの人の協力のおかげでうまくいっている。地域の中で環境や人、牛を大切にしながら経営もうまくやっていくことは難しいと思う。よくばりすぎず、バランスも大事に無理なく、無駄なくやっていくこと。これは酪農に限らず様々な所で言えると思う。効率を重視しているようにみえて実は無駄だらけな社会。常識にとらわれずに、本当にこれでいいのかと考えることは大事だと思う。大学生のうちに様々なことを体験し、考えたい。

年　月　日

学籍番号 18A3046A 氏名 渡邊泰生

山地酪農は一人では不可能だと知り、コミュニティを作って、みんなが幸せになるように、牛を飼っているのが素晴しいと思った。大学の中で学ぶことは、全て正しいことではなく、フィールドワークを通して、何が大切かを学んでいくことが大事であるということを知った。山地酪農がどんどん時代に合わせて変わっていき、メーカーの都合で牛乳の標準が変わっていってしまったことが非常に悲しく思えた。山地酪農は現在の日本ではまだまだ浸透していないくて、これを地域の人々に分かっていってもらえるように努めていくことが大切なんだと思った。直接、触れてみて分かることがあるので、知ろうという心がけを持っていきたい。

2019 年 5 月 16 日

学籍番号 18A30300 氏名 鶴田 茜

今回の講義において、山地酪農についての現状を学んだ。私がその中でとても衝撃だったのは、牛に良いえさや良い機械を使うほど、経費がとてもかかり、貧困になってしまうということだ。豚舎での密飼いという現状を変えるために放牧というスタイルをとっても経済的に厳しい。このことによって山地酪農などの放牧をより難しくさせると思った。対策はコミュニティをどんどん作っていくことが大切だと思った。牛を生育する上で必要なものを提供してくれる人、同業者がいれば放牧が広まると考える。また企業の乳脂肪分3.5基準という話は初めて知った。普段あたり前のように飲んでいる牛乳がそのような規制がかかっていることに驚いた。これからは自分の食生活について学ぶべきだと思った。

R.1年 5月 16日

学籍番号 18A3023A 氏名 鈴木 彩名

山地酪農の話をきいた。今の酪農の現状を聞いて、自分の想像していた以上に家畜にとってもそこではたらいている現地の人々にとっても悲惨な状況となっていることがわかった。牛を放牧せず、濃厚飼料によって育てるということをしないと生産性が上がらない。そうせざるを得ないという現状がさみしいなと思った。効率やお金だけを求める暮らしじゃなくても幸せに生きていけるということが幸山さんを見ていて伝わってきた。周りの人々と異なる行動をとるということは難しいことだと思う。しかし、幸山さんが話していたように周囲の人々をまきこみながらこのような活動をもっと広げたい。そのためにはこの活動についてもっと人々へ知ってもらうことが大切だと感じた。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A3025H 氏名 棚橋 香月

放牧するためには土地が必要であったり、その土地を買ったり維持したりすることでも負担があったりするため、批判されることがあるのは納得できる。無農薬で育てるように挑戦していくことは批判されても気にせずに自分の意志を貫いていくべきだと思う。今の社会が行っている牛をダメにする人もダメにするような酪農は本来牛がもっている能力などを無駄にしてしまっていると感じている。規模を拡大したり利益だけを考えることが本当によいのか まず地域などの小さいところから見直したり考え直したりする必要があると感じた。農薬の場合も農協で基準が決められており、満たしていないとお金をいただけなくなってしまう。企業側もより安定した利益を得たいと思うし、農家側も利益を出したいと思っているであろうから、育てている作物や飼育している家畜などに悪影響がなく、また環境を汚染しないような解決策を政府が出してくれれば見直されていくように感じる。

R1 年 5月 16 日

学籍番号 18A3032A 氏名 中尾有那

感想

今回、山地酪農を実際にやっている幸山さんのお話を聞いて、今ある酪農や動物を飼育するということの現状とそれに対する疑問点が浮きぼりになり、疑問に思っていなかったことに対して自分の考えがうまれた。また、山地酪農をやっていく上で、山地酪農だけにとどまらず、地域のコミュニティーとのつながりが必要不可決であることが実感できた。幸山さんが言っていたつながりは小さなコミュニティーであったからこそできたことであり、規模が大きかったり、人の違いなどで、スムーズに土地を借り酪農をしていくことが、自分が思っている以上に難しいのではないかと感じた。規約や買い手側の規準によって自然に作られたものが商品として成り立たないことに疑問を感じ、こういった大きな先入観を人々の中で変えていかなければ、山地酪農などの自然的なものの理解は得られないと感じた。

学籍番号: 18A3035E　氏名: 長谷川 匡紀

科目名: 山村計画学　授業日: 5月 16日

食は生産する人と生産するものがあってこそ成り立つものであり、生産する人が生産するものを一方的に都合良く使っていては、安くて皆が買ってくれるものができるかもしれないが、生産するもの、生産する人、周りに協力してくれる人、どこか物足りない幸せを手にしてしまうのだろうなと感じた。

生産するものは、それが気持ちのよいと思える彼ら彼女らにとって最も自然であることが、重要なんだろう。彼ら彼女らが本来(に近い)生活を送るならば、自然と低コストになるんじゃないかなと思います。ただ、生活環境を整えるためには、相応のお金と労力がかかると思うが、自分が、周りの人が、動物や植物が本当の幸せを掴むのであれば、安いものだろうし、自然と頑張れるのだなと思った。

2019年5月16日

学籍番号 18A3003G 氏名 阿部菜々

幸山さん、今日はありがとうございました。
私は、先週この講義で見た、中洞牧場のDVDに心を打たれ、ぜひ中洞牧場に見学に、体験に伺いたいと思っています。中洞牧場の牛乳も2本だけですが買いました。19日に届くので楽しみにしています。牛乳の感想と一緒にお手紙を書こうと思っているので、私の想いはその時に書くことにします。
宜しくお願いします。

2019年5月16日

学籍番号 18A3006A 氏名 一ノ瀬 孝良

今回、山地酪農についてお聞きして、役場や、農協などで、そういった組織とはまた違ったやり方があるのだなと知ることができました。正直、私が幼き頃より想像していた酪農では、放牧で牛がのびのびと暮らしているものでそれが今の大半は、そうではなく、これだけある大自然を活用しないのはもったいないなと感じました。でも実際、もうかっているのは、放牧ではない方で、それでも、もし私が酪農農家であったなら、目指す形は、放牧にたどりついていたと思います。現状を知らない人もいれば、知っていても、就職先のほとんどは組織的なもので、放牧をすることができない人が多数いると思います。そんな人々を変えていくことができたらいいのになーとても思います。今回、実際に山地酪農をされている方の話をお聞きできて、道が少し広がりました。ありがとうございました。

年　月　日

学籍番号 18A3009F　氏名 長隆至

幸山さんの話をきいてとても感動しました。
こういう生活をしても幸せを感じることが出来る
ほんの少しでもお金があれば仕事が出来る
その考えにいたるまでに自分を見つめ直し
今いる環境に疑問を持つほんとうに
幸山さんは幸せ人だなと思いました。自分も
自分のビジョンの幸せのために行動し続けようと
改めて感じました。自分の生活に対して疑問を
持つということはとても難しいことでそれに対して
自分の行動を変えることもさらに大変だったと思います
周りの人からとても批判されることもあったと思います
けれどもあきらめずにやり続けた結果がいまの
幸山さんだけ思いました

2019年 5月16日

学籍番号 18A3012-1 氏名 小澤元輝

酪農家の方々の中で、牛舎の中だけでなく、放牧をして、牛がより良い環境で生きていけるようにしてあげている人たちが牛乳の品質の問題で利益が出ないようになってしまっているのは理不尽なことだと思うし、企業の方だけで勝手に基準を決めて、ペナルティを科すというのは傲慢だと感じました。もっと、努力している人たちが取引でも優遇されるような環境を作っていくべきだし、企業の方も自分たちの利益だけを考えるのではなく、そのようなことも考えて取引をするようになればいいのになと思いました。

2019年 5月 16日

学籍番号 BA3029A　　氏名 坪田 凛悟

普段の講義とは一味違った世界を楽しむことができて、非常に精神をリフレッシュできたと思います。私自身、彼のような思想に共感するところが多くあったため、月にような考え方をしている人は、世の中にたくさんいるのだと考えることができたことは、大変ためになりました。

私は、最近生活でもがいっぱいで、自分以外のことに目を向けることが難しいなと感じています。今日の彼のように、世の中をふかんしてみれる中となりをもてたいと思いました。

2019年5月16日

学籍番号 18A300814　氏名 稲 亮吾

私は今回の講義で幸山さんの話を聞いて酪農と一言にいっても色々な苦難があったり、酪農をする地域との関係性があるのだと思った。山地酪農だと乳脂肪分が3.5%を越えるのが難しい中で乳脂肪分3.5%にみたないとペナルティを与えるといったメーカーの都合のみで考えるのはどうなのだろうかと思った。また何かをする地域において新しいことをしようとなると、その地域に住む他の人々に踏まれ村八分になるときいて、なぜそのようなことをするのか。また何か新しいことを始めるにあたり応援するような社会になるべきではないかと思った。

年　月　日

学籍番号 18A3045B　氏名 山崎 周

今回の講義を受けて、一昔前の畜舎では、豚の色が分からなくなってしまうほど汚れてしまっている中でその豚を知ることがなくスーパーなどに並んでいることに衝撃を受けた。それに比べて山地酪農は自然の力で牛を育てていて昔より少しずつ社会の山地酪農への理解が進んで行きやりやすい社会になっていっていることが分かった。また、そういった農家は地域とコミュニティの連携が強く、お金のいらない生活を送れていることは特有のメリットであると思った。これからは座学によって学ぶだけでなく、フィールドワークによって現地のリアルを見ることもフィールドワークの本質に近いものがあると考えた。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A3036C 氏名 林 和輝

前回のなかほら牧場のビデオを見て、山地酪農について疑問がいくつかあったが、今回のお話で解消した。

お産や子育ては母牛が行っており、人工授精をしていないという事で、牛の繁殖などについて疑問に思っていたので理解できてよかった。

ただ、他にも疑問はあるので、聞くときは一時の恥、知らないのは一生の恥」の言葉を聞いて、今後もわからないことは人に聞くことを大事にしていきたい。

学籍番号: 18A3015A　氏名: 工藤 祐作

科目名: 山村計画学　授業日: 5月 16 日

幸山さんのお話を聞き、大学で座学をするだけでなく、フィールドワークをすることで実際の農業や酪農について学ぶことが重要であるということが分かった。また、山地酪農が日本でどのように行われてきたのかを知ることができ、無理、無駄のない山地酪農法がより多くの牧場で行われると良いと考えた。

学籍番号: 18A3020G 氏名: 赤堀原広大

科目名: 山村計画学 授業日: 月 日

実際にやっているところから学んで~~[illegible]~~みる。たしかにそうだなぁと思うし、おもしろいなと思います。この授業では目には見えているけど気付けない点、見てみぬふりをしている点などに気付けるので痛いながらおもしろいです。

合宿暮らしは、したいし楽しいだろうと思います。ただ、私一人であれば合宿だろうが海外だろうが好きに行きたいです。しかしながら、自分が大学まで来させていただいているような同じ教育を将来できるのかと訊はそうではない。特に、高校の私立が少なく、二次募集でだいぶ下のところに行かなくてはならないなどの問題を見るとそれも良いとは思えないのです。

どうにかなんかなぁとは…ってそこです。

山村計画学

年　月　日

学籍番号 18A3027D　氏名 田村龍紀

今回も山地酪農についてのお話を聞かせてもらったが、先週のビデオとは異なり、より具体的でリアルな話で興味深かった。山地酪農というスタイルだけでなくこれからの社会のあり方、自分の生き方を見つめ直す良い機会になった。現在の畜産業のうち たったの3%が山地酪農で残りは介護畜産と呼ばれるスタイルで育てられている。エサや人件費など無理、無駄の多いスタイルだと実感した。その反面山地酪農であればその無駄も省けるし環境面でも（我々にとっても家畜にとっても）改善するだろう。今回の講義で最も印象的かつ賛同できると感じたのは千年家(野)構想だ。もちろん山地酪農もそうだが、我々の暮らす社会、コミュニティーも千年続くような仕組みを考えていこうという思想だ。自分は酪農についてはここで聞いたことくらいしか理解も知識もないが、社会については長く続いてくれれば良いに越したことはない。そのために、自分も含め多くの人が未来の存続について具体的に考えていくことが必要だと感じる。

令和 元年 5月 16日

学籍番号 18A4032F 氏名 長澤 柚季

前回の授業で山地酪農のことについて知り、正直山地酪農は現実的ではないのではないかという考えが頭から抜けなかったが、今日実際に山地酪農を行っている幸山さんのお話を聞いて、その考えが変わった。草は無料であるし、本来牛は草を食べて自立して生きる動物であるから、美味しい牛乳を作るためには人も牛も自由に生活できる山地酪農が最適であると思った。誰かが始めていかなければこのような牛にとっても人にとっても最高である山地酪農は広まっていかないと考え、今普及していないから現実的に厳しいだろうと思っていた以前の私の考えは常識にとらわれていたのだなと思った。既存の酪農スタイルと山地酪農を比較してみても、圧倒的に山地酪農の方が今後の日本の酪農スタイルにふさわしいということを今日実感したので、常識にとらわれずふさわしい方を自信をもって広めようとしている幸山さんはすごいと思い、尊敬する。幸山さん自身もとても生き生きとしていて、山地酪農がすごく魅力的に感じた。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A4025C 氏名 田中来実

色々なことを深く考えさせられる授業で、貴重なお話がたくさん聞けてとてもいい時間になった。放牧の良さ、畜舎で育てることのデメリットは本当によく理解できて、今日のお話を聞いた人なら誰もが放牧を広めていくべきだ、畜舎で育てるのは悪だ、といったような印象を受けるのではないかと思う。しかし今の社会では山地酪農、放牧を広めるのは難しいことも理解できる。どんなに高い志しを持っている人でも、自分や家族の生活がかかっていればわざわざリスクを伴ってまで新たなやり方に挑戦せず従来のやり方で安定した給料を求めて働かざるを得ない人もいると思われる。酪農の仕組みを変えることは社会を変えることだと思うので、そう簡単に社会を変えることはできないのが現状である。しかし今日お話を聞いていて、たとえ今すぐに変わらなくても自分のできる範囲で何か行動を起こさなければと感じた。まだ社会人でなく、自分の生活に余裕がある今の時期に感じた疑問や抱いた志しを社会人になってからも失いたくないと強く思った。

令和元年 5月 16日

学籍番号 18A4036J　氏名 平松 綾乃

幸山さんの話を聞いて、既存の酪農の現状と山地酪農とを比べて考えることができた。普段飲んでいる牛乳がどのようにつくられてきたのか、それに携わる人々がどのような思いでやっているのかなどを考える機会は少ない。生きる動物を経済動物として利用する中で、人間に信者けを意識しすぎているし、消費者の健康や牛の健康をあまり考えていないように感じてしまった。特に、本来20~30年生きることのできる牛が5、6年で亡くなっているという現状を知り、それほど大きな違いがあることにとても驚いたし、人間の都合で動物の寿命を早めてしまっていることに憤りを感じた。しかし、それを知らずに、牛乳を飲んでいた自分も、将来の酪農の在り方について考えるべきだと思った。根羽村での幸山さんの山地酪農の作業に参加させていただいた時、近隣の人々のあたたかさや幸山さんに対する信頼や人間関係を近くで見て、お金を必要としない助け合いの暮らしにとてもあこがれを持ち、将来、自分もこういった場所で働き、生活したいと強く思ったので、幸山さんのお話にもあったように、自分の思いや疑問をそのままにせず、行動を起こし、学び、自分がやりたいことをできるよう、大学生活を価値あるものにしたいと思った。

学籍番号: 18A4003B　氏名: 他ビギ ネハン

科目名: 山村計画学　授業日: 5月 16日

前回に引き続き山地酪農についての話だったが、幸山さんの「介護酪農」という表現が自分としてはかなり的を射てしまうように感じ、そうやって自分の意志で生活できずにストレスのかかった牛の肉や乳を飲むのは確かに抵抗があると思った。また、根羽村で独立した時の互酬制経済や山地酪農2.0の説明であった乳、肉以外の価値等のお金以外のやりとりがある関係や、生物的に無理無駄のない精神的に豊かな活動は自分が望むものであり、そういった考え方や形式がもっと社会全体に広まってほしいと思った。そのためにも、実際に現地に赴いて経験を積み、課題の解決に向けて試行錯誤を重ねていきたいと思った。

令和元年 5月 16日

学籍番号 18A4001F 氏名 安部 有佳子

今日の講義で、幸山さんのお話を聞く中で驚いたのが、分業化が進む中で、牛が隣でお産をしているのに見ぬふりをして、結局子牛が亡くなってしまったという話だった。酪農の仕事についたのだから、搾乳をしていた人も、動物が好きな人だったのだろうと思う。それでも、搾乳という、1つの単調な仕事しかできない環境で働きつづけると、心をなくしてしまう、動物の新しい命が生まれるという瞬間に何も感じなくなってしまうというのは恐ろしいことだと思った。また、幸山さんが「介護酪農」だと言っていた、合飼い酪農では、肉の脂肪が黄色くなるのを防ぐために、ビタミンAを摂らせない。黄色くなるとランクがしまで下がってしまうと知った。ビタミンAを摂らないと起立不能や、夜盲症になるなど、牛は体調不良を起こす。脂肪が黄色くなる、という見た目を重視した、人間の勝手さで、牛の健康が損なわれていると思うとかわいそうに感じた。日本の政策や乳業メーカーの支配に縛られた、現在の酪農が、少しずつでも、変わって、根羽村にいる牛のように広々とした環境で育つ牛が増えるといいなと感じた。

2019年5月16日

学籍番号 18A4002D　氏名 石原 龍太

高校時代に豚舎の映像を観て、自分ならもっとうまくやれると思ったり、大学の先生は大したことを知らない人ばかりであると思ったという話を聞いて、今までにない新しいことを始める革命家のような人には、そのくらいの図太さや自信が必要なのだと感じた。消極的で周囲の視線を気にするような人では、恐らくうまくいかないであろうと思い、自分には幸山さんのような自信が足りないと実感した。

また、型にはまった進路以外にも多くの選択肢があることに気づかされ、内川先生が以前言っていた常識に囚われないということのメリットがこういう場で発揮されるのだと実感した。

最後に、仲間が必要だと幸山さんは言っていたが、苦しみを増やすために、今回の講義のような教育の場は、今後も増やして大切にしてほしいと考える。

2019 年 5 月 16 日

学籍番号 18A4022J 氏名 武岡明里

山地酪農は飼料代もかからず、牛の基本的な世話の必要もなく、また林地の下草刈りの代わりになるということで、とても効率のいい経営の仕方だと思いました。飼料メーカーでもある大手乳業会社の手に乗らず、放牧型の酪農方法の方が牛の健康や人の健康のためにも良いのに、既存の大手企業のようなやり方が主流の状況は、とてもいびつだったと思いました。酪農は人の利益のために牛を使う産業ですが、牛を機械のように、工業的に保ゝるのではなく、ひとつの生命として促え、食以外のところでも、牛が人間と同じひとつの生命であるからこそ人間が得られる利益にも、着目していけることが理想であり、それが経済動物との正しい向き合い方なのかもしれないと思いました。

年 5月16 日

学籍番号 18A4016d 氏名 金 沙蘭

今回、実際に牛を飼育している方の話を聞いてみて、その大変さであったり、生計を立てていくことの大変さも知ることができた。大学生の時から自分のやりたいことだったり、今自分がやっていることの意義などを考えて将来の事を考えていたのは現在私も参考にもなったし、考え方が変わるよいきっかけにもなった。

農家や、家畜などを実際に飼っている人のイメージが以前とは大きく変わった気がする。かつ、牛など家畜は生きている動物を責任持って育てていくため、その心がまえなど知ることができた。

2009 年 5 月 16 日

学籍番号 1BA40379 氏名 川口実咲

私は、「経済動物」という単語を知ってから、ずっと違和感を感じていた。自分と同じ生き物なのに、牛乳を出すために飼われ、搾乳されたりする。そんな背景があり牛乳や牛肉を何も感じずに食べていたことも、自分の恐ろしさを感じた。30以上もの牧場を見てきた牛さんが、そこで学んだもの、感じたものを活かして、現在根羽村で牧場を立ててるという行動力がすごいと思いました。上記報告にあるように、人間同士のコミュニティがあったり、経済以外の付加価値を得られる様な土地開発には、牛も人も幸せで、お金が全てな現代の世の中とは違う素晴らしい空間だと思った。無駄な規制がない土地開発で、家族に人生を捧げることが人間らしい生活だと思う。今後、自分を見直して、大学だけでなくもっと外にしばられている事を考えなおして今後の人生に活かしていきたい。

令和元 年 5月 16日

学籍番号 18A4006G 氏名 大川 佐知

幸山さんの話を聞いて、まず初めにとても素敵な生き方だなと思った。自分のやりたいこと、やるべきことをつきつめているところがすごいと思った。また、放牧についての自分の考えも変化した。私も幸山さんの学生時代と同様に、牛を飼うときくと、放牧をイメージしていた。しかし、実際には放牧は全体の3%にすぎないということを知り、とても驚いた。一方、牛舎で飼われている牛が病弱であるという話も聞いて、放牧にも多くの問題点はあるのかもしれないけど、今の日本の畜産や酪農には違和感を感じた。

R7年 5月 16日

学籍番号 18A4008C 氏名 大塚 彩葵

幸山さんの行っている根羽村での酪農は、広い土地でのびのびと放ぼくされる牛達も人トレスがかからず過ごせるのはもちろんのこと人々もコミュニティの内で強く結びついていて、助け合いながら暮らしていて人類として本来あるべき幸せの形を実践しながら暮らしている感じがし、私はあまり酪農等に興味がないのですがとてもあこがれをもってしまうような生活だと感じました。また、大学時代から「やりたい」と考えていたことを、考えるだけに終わらさず、実現させるために実際に行動に移し、熊本で得た経験を根羽村に来てから生かしていてまた、それを実現させつつあってすごいと思いました。山地酪農が提しょうされてから現在に生たるまで、現在では広まりつつある第六次産業があまり良く思われていなかった時期もあったり、人員のこと等多くの問題がありまだつづいている問題もあるが、私も興味をもちはじめたので、これからの学びを通して考えていきたいです。

R1年5月16日

学籍番号 18A4038E 氏名 部谷 悠理香

今日の講義で実際に山地酪農をしている人の話を聞いて、どういう考えを持っているのかが知れて良かった。毎回の授業で内川先生がおっしゃっている常識の束縛からの解放が新たな道を開くのだと思った。家畜にストレスがかかりながらも生産性の高く経済的にもあまり困らない方法で酪農を行なう人はお金の面を最も重視していると思う。逆に家畜にも人にもストレスが少なく、また、お金にはならないが森林環境が整う方法で酪農を行なう人は家畜や人の幸せを重視していると思った。稼ぐ稼がないという考えを持つのはその人の今までの経験から来ていると思うから、そういう考えをもつのはしかたがないことかもしれないが、稼ぐ稼がないではなく幸せを求める考え方はとても理想でいいなと思った。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A4020B 氏名 澁谷 歩

今まで授業でも地酪農について学んできましたが、幸山さんの話を聞いて、良い点ばかりでなく苦労したことについても聞いて新しいことに気付かされることができました。中洞牧場が、最初は受け入れてもらえなかったことは前回の授業で知りましたが、回覧板が回ってこないような村八分をされるほど酷い状況まで想像していなかったので驚きました。たしかに、他の酪農家さんは放牧は経営的に成り立たないと考えているので地酪農を受け入れない気持ちはよく分かりますし、実際周りの人とお金ではなく助け合うコミュニティーができていないと地酪農を行うことは難しそうだと思いました。お金でやり取りするのではなく物々交換の社会を作ることも必要であるので、1人で行うのは大変ではありますが、何か行動を起こせば県単位では難しいが、村単位では作ることができる可能性があると思いました。

学籍番号: 18A4004A　氏名: 市川竹

科目名:　授業日:　月　日

。今日の講義を聞いて、宗山さんの自分の考えをしっかり持っている点に魅かれた。大学で学んだことが正しいとは考えず、自分で実際に体験して学んだことを、活用して行動している点は、大きな学びになった。また、今の世の中の大量生産・大量消費という考え方に反した、牛を宿舎で飼い、飼やりなどの介護酪農から、牛の病気や命のことを考えた山地酪農への転換が常識にとらわれずに考えるという講義でも言われたこととつながり、より、具体的にわかるようになった。農山村の前の講義でも言われていた、物を手伝うかわりに、食事を提供することにより、お互いを助け合うという関係は今の時代では考えられず、それを行っていることにすごい魅かれた。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A4024E 氏名 竹村 有輝

私は今回の授業を通して、自分の中にこもるのではなく視野を広くし様々なことに心を開くことの重要さを感じた。私は以前、幸山さんと繋がりを持たせてもらいました。当時、山地酪農自体にも興味を持ったが、未開の地へ自分を信じて挑戦していく幸山さんの生き方に心を打たれた。しかし、いざ一人になって考えると固定的な考え方や自分がそれ以前に持っていた考え方に捉われてしまい、なかなか新しい一歩を踏み出すことができなかった。今回、このような機会を作っていただきお話をうかがってもう一度刺激を受け様々なことに挑戦したいと感じた。これは山村計画学で以前学んだ固定的な考え方に捉われないということに繋がっていると感じる。私はいまだ将来のことについて深く考えることができていないが自分の心が動かされたことを信じてもう一度挑戦を続けてみようと感じる。

R1年5月16日

学籍番号 18A4035A 氏名 平谷 理人

今回、山地酪農を直に行ってきた方の生のお話を拝聴した。これまでもこの講義等で、山地酪農については、浜山耳にしてきたがやはりそれを行ってきた本人からは言外の意も伝わってくるようである。

山地酪農について、一番のイメージとして伝わってくることは、「自立性」である。牛たちが自立し、産業としても自立している。それは本来の自然や人間の在り方を表わしているようで、そのような考え方は私も同意である。

そしてこれらをとりまく問題から学べることも多くあった。それらの中でもとりわけ牧場の価値が商品だけではない、ということである。私はこれに森林の公益的機能との共通点を見出した。すなわち、その牧場が様々な営みの場所であることに目を向けて、その多面の価値を見出すことである。この視点が社会に広がれば、今では考えられないようなことも実現可能になると私は考える。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A4019J 氏名 佐藤由美

今回のお話を聞いてこれからはそれぞれの分野、産業が連携していかなければならないと考えさせられた。戦後は食料難におそわれ、生産の効率の良さが求められていたが、今の時代はまた違うことが求められていると思う。山地酪農はまさに現代に求められていることだと考える。酪農という産業だけでなく、販売経営など広めていくのはとても大切なことだと思う。これは林業にも通じることだとも思う。山地酪農3.0は、酪農家さん同士の繋がりをはじめ、地域のコミニティとの連携がとても大切だとおっしゃっていて、たしかにそうだと感じた。コミニティが広がることで、何か考えるときは八人の何倍という思考ができる。田舎では特に大切なことなのではないかと感じた。また、農場を牛の放牧置としてだけでなく花などを設置したり、体験ができたりと多面的に活用することは、農場という印象を変え、様々な人々がコミニティのとれる場所になるのではないかと思った。

学籍番号: 18A4005J　　氏名: 一柳勇太

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月16日

先週映像で見た山地酪農について、実際に行っている人から話を聞くことで、メリット、デメリット、現状、歴史、課題をより詳しく知ることができた。山地酪農は低コスト低収入の循環型農業であるという話と、中洞牧場で牛の頭数が増え、機械が導入され、企業的になっているという話から、山地酪農は一人では困難だが、従業員を雇って養うには費用がかかり、また、日本では物価の上昇、賃金の見直しが行われており、企業化せずに経営を維持していくのは厳しいように感じた。山地酪農が発展し、継続していくには山地酪農を行う農家だけではなく、牛乳を仕入れる企業、消費者、さらに、政府や行政による支援や経済体制の変化が必要不可欠だと感じた。

学籍番号: 18A4012A　　氏名: 加藤 久樹

科目名:　　授業日:　　月　　日

生産性を重視して牛舎で育てられる牛の様子を聞いて自分もその畜産形態はおかしいのではないかと感じた。畜産は生き物と関わる職業であるのにそのような機械的作業では違和感を覚えるし、その面、放牧というのは牛にとっても人にとっても理想的な形なのかなと感じた。また、放牧によって人ではなく、牛が主体となり、食事やお産などを牛自身が自然の中で行うことによって半永久的に畜産をすることができるのは、持続可能な社会を目指す上で必要なことであると思う。

令和1年 5月16日

学籍番号 18A4014H 氏名 神取 美奈

幸山さんのお話を聞いて、山地酪農について学ぶことができた。既存の酪農は、牛をロボットのように扱い、農家さんの利益を優先させていて牛がかわいそうだと思った。しかし、山地酪農は牛が自由にのびのびと動けるし、草を食べることで下草刈りにもなって一石二鳥だなと思った。また、山地酪農といっても基本的概念がなく、山地酪農1.0から3.0まであり、今後4.0ができるかもしれないということで、今後山地酪農がどうなっていくのか楽しみだと感じた。

幸山さんは、既存の酪農スタイルに疑問を持ち、自分のやりたいことをやろうという勇気がすごいと思った。今、幸山さんが行っている山地酪農では、牛が自身で出産も行うし、寒い冬も外にいたり、より自然に近い状態で放牧している。幸山さんも地域の人と交流し支え合って生活されている。そのような生活は牛にとっても人にとってもすごく良いなと思った。

R1 年 5月 16 日

学籍番号 18A4044K 氏名 横川 晴一

今回の講義で、山地酪農を実際に行っている幸山さんの話を聞くことができて本当に良かったと思う。今まで映像だけでしか知ることの無かった山地酪農について、良いことや悪いこと、大変なことやなぜ山地酪農を目指したのかといった、「生の声」を聞くことができてとても興味深かった。現代日本の酪農は無機質なものであると思ってはいたが、牛の死産を見逃す程にひどいとは考えておらず、ますます乳業の大手メーカーが正しいものであるのか懐疑的になった。逆に牛に優しくあろうとする農家程もうからないことにやるせなさを感じた。そんな中で、今一度牛に優しい酪農として活動している山地酪農の人々には是非頑張ってもらいたいし、自分もその支援をしていきたい。

2019年 5月 16日

学籍番号 18A8008A 氏名 大野田 直弥

今回は実際に山地酪農を実践されている
幸山さんのお話を聞くことができた。自分が
疑問に思った、違うんじゃないかと思ったことを
発展させ実行に移す姿勢が素晴らしいと思った。
山地酪農の良さや歴史、現行酪農の
課題点をよく知ることができたし、幸山さん
自身をよく調べた上で現状を変えようと
しているのだなと感じた。日本に大量にある
使われていない山地を利益の出るものに
変えられる方法の1つとして山地酪農があると
思うので、是非広まっていってほしいと思う。

年　月　日

学籍番号 18A4029F　氏名 中田 小春

今回の講義では実際に山地酪農を行っている方のお話を聞けてとても沢山の事を学ぶことができました。幸山さんの「人と牛が幸せに」という信念のもとの酪農への取り組みの軌跡はとても素晴しいものでしたし、実際に体験した人でないと気がつかない山地酪農の問題点やポイントは開いた口が塞がりませんでした。酪農において経済的に合理的な牛舎でたくさんの牛を飼うことの、倫理的、道徳的な問題については知識として私の中でありましたが、「大手企業によって酪農家の出入口が防がれた状態」という問題は考えてもいないものでした。何をするにしても、人は楽しくないと続かないものですし、大低の人は他者の悲惨な状態の上での自分の幸せには耐えられないと思います。千年続くような酪農とは人々と牛の幸せの追求のうえではじめてなりたつのだと思いました。

2019年 5月16日

学籍番号 18A4033D 氏名 陌間 芳野

山地酪農のビデオを見ていたときは心の中でどこか夢物語のような気がして、実際にこのような農法が存在することが信じられなかった。今日、山地酪農を行っていらっしゃる幸山さんのお話をお聞きして、本当に日本で山地酪農をしている人がいるのだと実感した。ビデオでは山地酪農をする上でのメリットは多く語られたが、その苦労やそこに至る道のりは多くは語られなかった。今回、乳脂肪分3.5基準や地域住民の方との関わり方など様々な苦労をされたとお聞きし、理想を実現するのはとても難しいのだと分かった。たくさんの問題が山積みになっているなかでも御家族や支えて下さる方々と一緒に理想の酪農のあり方を求め続ける幸山さんはうらやましいくらいかっこいいと思った。山地酪農は本来の酪農の姿であるべきなのに、多くの人に周知されていないばかりか、関連業者である牛乳業者にも理解されていない。私ももっと山地酪農についての理解を深めて、いろいろな人にこんな酪農の方法があるのだと広めていきたいと思った。

学籍番号: 18A4021A　氏名: 清野敦

科目名: 山村計画学　授業日: 5月16日

今日の講義を聴いて、一番大切なことは、仲間をつくることであると感じた。今の日本の社会は多数決であり、多数派が大きな力を持つと思う。その中で、新たな道をひらいていくには1人でなく協力者が必要であり、その協力者をつくるような活動が意味をもつと思った。幸山さんの目指す社会は明確であり、そこを目指して千葉にこだしているということが良く分かった。まだ自分にはそのようなものがない。見つけなければいけないと思った。

2019 年 5 月 16 日

学籍番号 18A4030k　氏名 中野正基

今日の講義は、現場の声として普段先生方から聞いている事とは違った視点からの話が多く、とても考えさせられる物でした。前回の講義からあった様に、今の酪農の多くの矛盾点などなぜそのままで今日まで来ているのかと思う事もありました。自分の体験としても、小、中学校の時に給食に牛乳を出してくれていた農家さんが廃業になってしまっていて、これらの問題点はとても身近な物だと感じました。

R元年 5月 16日

学籍番号 18A4026A 氏名 丹野 凌

本日の講義では、前回取りあげられた酪農の現状と山地酪農について、より詳しく知ることができた。牛・豚たちがどんな劣悪な環境で育てられているのかが伝わってきたし、その一方で理想を追いもとめることの難しさも同時に知ることができた。経営面と牛たちの環境面と両方を兼ねることのできる山地酪農を突き進めていってほしい。

また、お金や機械があまりなくても、人間が幸せに暮らしていける道がまだあるのであれば、それを追求していってほしいし、詳しく知りたいと思った。

学籍番号: 18A4039C 氏名: 前田 耕平

科目名: 山村計画学 授業日: 5月16日

放牧の厳しさを大変理解できた。牛を主役に健やかにと思うともうかるという経済の視点からすれば大変難しい問題であると思う。「銀のさじ」というマンガで牛乳を水でかさ増しして出荷したりしなければ酪農が大変であるという一面を知っていたが放牧というさらに難しいフィールドで工夫して村と共存していく全員が利益を得られる方法を見付けていて素晴らしいと思った。機会があれば根羽村や中洞農場を訪ねたい。

2019 年 5 月 16 日

学籍番号 18A4042C **氏名** 山崎 千種

実際山地酪農をされている方から話を聞いて、やはり「理想と現実」というものがあり、「現実」の部分は社会的な要素によって構成されていて、個人でたちうちするには難しい状況だからこそ、コミュニティが大切なんだな、と思いました。自分自身、自分の周りの環境も、社会の環境にも、仮に違和感を感じたとしても、それを「そういうものなんだ」と納得してしまうところがあります。現状を見て、何かおかしいと思ったり、どうしてなのだろうと考えることを大切にしていきたいと思いました。

年　月　日

学籍番号 18A4041E　氏名 宮西 稔

大学で学ぶ事について否定的な意見を持たれているのが衝撃的でした。現場と学問は確かに離れている部分も多いと思いますが、だからといって無意味だということになるとは思いません。

年　月　日

学籍番号 18A4027K　**氏名** 塚原 理美

今日の講義で先週聞いた山地酪農について、より詳しいことを知ることができた。私は山地酪農はとてもいいと思うけれど、何となく前例がないから遠ざけて考えていた。そのため今日の山地酪農2.0の講義にあった「これから2.0に移行するのは不向きになりやすい」というのはとても理解できたし、前例がないことを嫌うのは仕方がない所があるなとも思った。しかしこの前例がないことを嫌ってのけ者にするという風習は非常によくないものなので、どうにかしてそれをなくしていきたいとも思った。山地酪農は牛のことを第一に考え、牛がのびのび健康に生きられることを考えた結果、人間にもいいことがあったけたいなところがあり、とても素敵だと思う。本来、動物の命を私達人間が食べるためだけに生み出しているというのが畜産で、その命に対して敬意を払うべきなのに、合理性を考えないがしろにしているというのは憤りを覚えた。また大企業による小企業や個人農家へのイジメのようなものもあると思った。自分のもうけしか考えてない所、とても横暴な点があった。幸山さんの生き方はとても素晴らしいので将来そんな生活がしたいと思う。ありがとうございました。

学籍番号: 18A4015F　　氏名: 綱谷智樹

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月16日

山北酪農への軌跡を聞いていると こういう道もあるのだなと感じた。今の日本は大学に入るのが当たり前で、どこかの企業に就職するのも当たり前。この当たり前が本当に幸せなのか疑問に感じ始めた頃にこの話を聞いてよかったと思いました。山北酪農での仕事内容や近所の付き合い方、土地の使い方など、ここには本来の人間のあり方があるように感じて、本来の幸せとはこういう感じなのかなと思う部分がありました。牛の方も、主流であるせまい空間で育てられる方法でなく、のびのび生きることができて牛も幸せだと思うので、幸せがあふれていると感じました。大学にいる間、何を勉強してどう活かしていくべきなのかを見つけ出し、自信をもって社会に出ていきたいと思いました。

学籍番号: 18A4007E　　氏名: 太田陽斗

科目名:　　授業日: 5月 16日

根羽村の山地酪農のシステムは自分も賛成で、産業的な視点からみると、効率は良くなかったりするけれど、野草を食べるのでコストが削減できたり、牛のストレスが少なく上質な牛乳が搾れたり、良い事もたくさんあるんだなあと感じた。　スライドででた第6次産業は今後もっと普及してほしいと感じたし、私自身も何かしらの形で関わってみたいと考えた。　また、牛や豚といった産業動物と人間の関係も人間からの働きかけのみでしか変わらないと思うので、牛舎に閉じこめ、飼料を食べさせるのはやめて、動物も人間もどちらとも幸せと感じられるような体制を築いていってほしい。

学籍番号: 18A4034B　氏名: 林 華英

科目名: 山村計画学　授業日: 5 月 16 日

私が読んだ本に、「里山資本主義」というものがあった。そこでは、現代のお金に依存した社会ではなく、そこに自然の資源も利用できるようなサブシステムをつくりお金に依存しすぎない社会を目指そうといったことが書かれていた。今回の幸山さんもそんな社会を目指そうとする人だった。私もそんな社会で生活したいと思って農学部を選んだ。地域のコミュニティーを大切にする社会を実現するのに必要なものは仲間であると幸山さんはおっしゃっていた。私自身、実際にそのような社会を目指す地域でその生活を実感したいと思った。

学籍番号: 18A4010E　氏名: 小林創平

科目名: 山村計画学　授業日: 5月16日

今回の講義で、やはり座学だけではなく現場に出てみるということが、自分の経験となっていくので大切なんだと感じた。また、山村酪農では今後はより多くの地域住民とつながっていくと聞いて、山村の活性化にも貢献すると考えられた。

学籍番号: 18A4031H　　氏名: 中村 有沐

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月 16日

中洞さんのことを先生から聞くのとはまたちがった気づきがあった。特にフィールドワークの大切さのお話は、フィールドワークをたくさんやっている現状を肯定されたようでうれしかった。それもあり、実際に山地酪農をやっている幸山さんのお話はとても説得力のようなものを感じた。食とは人が生きる上で欠かせないモノであり、農学という食や環境を考える学問を教わっている身として、先のことを考える重要性を学べた。

R1年 5月16日

学籍番号 18A4011c 氏名 鏡 平

今の酪農のあり方に、自分も疑問を感じているし、それを変えていきたいと思っています。また、お金をかけずに、自分の能力をshareし合って、みんなが幸せになっていく暮らしがメジャーになっていくことを望んでいるし、自分もそういう風に社会を変えていきたいと思っています。それで、今、色々やりたいと思っていたら、根羽村というステキなところを見つけたので、ぜひ、根羽村や幸山さんと関わっていきたいと思いました。

牛のポテンシャルの話では、やはり農業で扱っているのは命だし、その命を命として味わえないのはさびしいことだと思いました。人だけじゃなく、自分のまわりの動物や植物ものびのび生きて、「みんなが幸せ、だから自分も幸せ」という生活をしたいと思いました。

学籍番号: 18A4043A　　氏名: 山田隆大

科目名: 山村計画学　　授業日: 5月 16日

講義の内容も前回のビデオに追随するようなもので興味深かったが、質疑応答の時間の、遠藤でのお話が非常に印象深かった。

人と人の関わりは仕事と金ではなく、未来の、それぞれの特異なことでお互いを助け合い生活していくという関係が現代にもあることに驚いた。山村での生活の中では一般的なのかもしれないが、こういった関係を広げることができれば、農村の拡大や住みやすさの向上も期待でき、より現状の日本の農山村の状況の改善に繋がるのではないかと思える。

2019年 5月16日

学籍番号 18A4017B 氏名 栗林 大輝

今回の講義で印象に残ったことは牛や豚などの家畜の飼育方法についてです。特に牛は牛乳が最も良く出る時期だけ飼われ、牛乳が出なくなったら様々な薬を投与された挙句、大抵薬は上手く効かずそのまま肉にされてしまう、そんな現状を聞いて、自分が普段食べている肉もそうなのかと考えると、自分の健康にどんな影響を与えるのか不安になりました。そして、牛にストレスを与えない方法としての放牧の重要性も感じました。